



道を間違えた

過去を振り返り、反省して今後に生かすことは大切なのですが、前向きな反省ではなく、「あの時、別の選択をしていれば、もっとうまくいっていたはずなのに・・・」等、過ぎてしまったことを考えて、くよくよしたり後悔したりすることがあります。過去が変えられないことは分かっているのに、実りのない後ろ向きな考えに時間を費やしてしまう。そんな経験は誰にでもあるでしょう。

私もこれまで、くよくよしたり後悔したりすることの連続でした。そのたびに、情けない自分が嫌になり、ますます落ち込むという悪循環でした。

そんな中で、過去は決して変えられないものですが、考え方によっては、過去（つらい経験や失敗など）の自分にとっての位置付けや意味合いは変えることができると感じることもありました。

その一つは、今やこれから自分が為すべきことを見つめ直し、意欲的になれたとき、過去の苦い経験や選択の失敗を「無駄ではなかった」と前向きに捉え直すことができるというもので、このような積極的な考え方で自分自身を鼓舞し、前進することができたこともありました。

しかし、本当に打ちのめされ、落ち込んだ時には、過去の全てが重くのしかかってくるように感じられ、後悔の念に苛まれ、積極的な思考にはとてもなれない、どうしようもないこともありました。そんな時に私は、ぼんやりとはありますが、以下のようなもう一つの考え方で過去を受け入れ、また前へ進んできたように思います。

「道を間違えた」と後悔したとき、「あのときは右、あのときは左の方が良かった」などくよくよして、今の不満を過去にぶつけてしまうものです。つらい現実には正面から立ち向かわずに、ただ立ち止まって過去に原因を探したりします。でも、道を間違えたことが原因なら、もう戻れませんし、同じ分かれ道は二度とありません。それが分かっているなら、無駄なことはやめようと思いました。

分かれ道の進まなかったもう一方の先には、どんな今が待っていたのでしょうか？

「今が一つしかないとすれば、分かれ道のもう一方は行き止まりだったのではないか？振り返れば、今に繋がる道は一本道。道は間違えていない。辿り着いた今からまた、この先も一本道。少しでも先を目指して、立ち止まりながらも、一步一步、精一杯歩んで行くしかない。」

ネガティブな思いから立ち直るための方法や考え方は人それぞれでしょうが、いずれにせよ、過ぎてしまったことをいつまでもくよくよしてはいけなないと思ひながら、毎日を大切に過ごしています。

..... 切り取り線

子供たちのための、意見・提案・要望・校長に知らせたいこと など

2022年8月26日（ ）年（ ）組 児童氏名

※匿名でも結構ですが、御連絡が必要な場合等を考え、記名していただくとありがたいです。

※担任に御提出いただいても、校長室前のポストに直接入れていただいても、校長に直接手渡していただいても、いずれでも結構です。

※メールでも随時受け付けております。kosaki-k@sendai-c.ed.jp（校長直通）